2026年新年会のご報告

総務理事：和田 照子

2026年1月15日、ワシントン日本商工会の新年会が、University Clubにて晴れやかに開催されました。当日は、法人・個人会員計86名に加えて、あいにくご公務のため参加できなくなった山田重夫駐米日本大使に代わり、島田丈裕特命全権公使をはじめ大使館の公使・参事官等の御来賓の皆様13名にご参加いただき、大変な盛会となりました。


島田次席公使の乾杯ご発声

冒頭、中村学商工会長からの開会のご挨拶の後、島田次席公使から干支にちなんだユーモアを交えながらのご挨拶と乾杯のご発声を頂戴しました。来賓代表として米国笹川平和財団の秋元諭宏理事長からは日米関係の過去・現在・未来に思いを馳せるスピーチをいただきました。多田前理事による軽妙な来賓ご紹介で盛り上がった後は、各テーブルにて、にぎやかに会話が弾みました。


日経河浪支局長のご講演の様子

ご参加の皆様が待ち構えておりました日本経済新聞社の河浪武史ワシントン支局長による「アメリカはどこで何を間違えたのか－250歳を迎える超大国」と題する基調講演が始まりますと、一斉に聴衆の皆様の視線が河浪支局長と力作のスライドが映写されるスクリーンに集中しました。日ごろからの緻密な取材姿勢を彷彿とさせるデータやファクトに基づくご講演は、ご専門の金融情勢・政策の分析も交えながら、大変示唆に富んでおり、改めて、私たちが大きな転換期の真っただ中にいるという現実を突きつけられた思いがしました。

締め括りに、ベイデン幹事の三本締めで本年の新年会はお開きとなりました。

混沌とする世界情勢の中で、台風の目ともいうべきワシントンDCにおいて、ますます私たち日本商工会が日米関係の深化に向けて果たすべき役割が大きくなっていると感じます。今回の総会をもって理事退任となった岡崎達朗、多田博子、山田有美、須内康史の各前理事への心からの謝意とともに、中村会長以下、新体制の商工会理事一丸となって、ワシントン日本コミュニティの活性化に取り組んでまいる所存です。本年も商工会活動へのご支援ご協力のほど、宜しくお願い致します。

JCAW Copyright © 2026 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。